

農業環境技術研究所・標本シリーズ8：井上寛コレクション

NIAES Collection Series 8: Hiroshi Inoue Collection

吉松慎一\*・中谷至伸\*・吉武 啓\*

Shin-ichi Yoshimatsu, Yukinobu Nakatani and Hiraku Yoshitake

1. はじめに

大妻女子大学で教鞭をとられた井上寛先生（1917～2008年）は、海外からもよく知られた著名な蛾類の研究者で、多くの論文を長年に亘り書いてこられ、また、「日本産蛾類大図鑑」（1982年講談社）の多くの部分を担当された。1992年の夏に井上寛先生の膨大な蛾類のコレクションはロンドンにあるイギリス自然史博物館に寄贈された。標本数は、タイプ標本800点余りを含む20万点にも及ぶ（岸田ほか、2009）。

井上寛先生の標本が海外の博物館に寄贈されたことは非常に残念であった。他にも、一色周知先生や川辺湛氏の蛾類の標本が次々と国外へ流出したことは、本当にやるせない。すなわち、我々アジアの研究者はわざわざ海外にまで行かないとこれらのコレクションの標本を見る事ができず、研究が遅れる原因ともなる（岸田ほか、2009）。しかし、最近では杉繁郎氏、佐藤力夫博士（吉松ほか、2006）、中島秀雄博士（吉松ほか、2007）などのコレクションが農環研に寄贈されるなど、一時の海外流出には歯止めがかかってきたと思われる。

ところが、専門家でも知らない方も多と思うが、井上寛先生のごく一部の標本が実は農環研に寄贈されている。今回はその紹介をしたい。

2. コレクションの概要と今後の利活用

第一著者の吉松が農環研に採用になったのが、1986年であるが、この時既に井上寛先生のメイガ類（現在はメイガ科とツトガ科に分けられるので、ここではそれらをまとめてメイガ類と呼ぶことにしたい）およびジャクガ科の一部の標本（図1）が寄贈されていた。これらは、およそ「日本産蛾類大図鑑」（1982年講談社）に従って、カタログ番号順に学名と和名のラベルの上に並べられている。標本が無い種も多く、その場合は種の学名と和名が書かれたラベルの上に標本は無く、分かり易い。欠けている種も多く、全ての種の標本がある訳ではないし、また、雌雄両方の標本が揃っている訳でもない。



図1 井上寛コレクションのメイガ類標本

\*農業環境インベントリーセンター

Natural Resources Inventory Center

インベントリー，第9号，p55-56 (2011)

しかし、この様な authentic specimens (同定に信頼がおける標本という意味) は、非常に役立つのでありがたい。すなわち、このグループの世界的権威である井上寛先生が同定された標本ということで、同定の信頼度が非常に高い。聞くとところによると、井上寛先生がロンドンのイギリス自然史博物館に標本を寄贈するより前に、当時の昆虫分類研究室長の服部伊楚子氏が少しでもよから農環研に標本を寄贈するように依頼したそうである。

井上寛先生が同定されたこれらのメイガ類およびシャクガ科の標本は、同定依頼があった時などに比較標本として非常に利用価値が高い。2008年夏北海道内の広域において多種類の作物を加害する見慣れないガ類の幼虫が多発生し、羽化成虫を調べたところ、これまでわが国では害虫として記録がないヘリキスジノメイガであることが分かった(吉松・岩崎、2010)。この際、農環研の井上寛コレクションに本種の標本1個体(図2)があり、比較標本として利用した。図鑑の写真よりも現物としての標本がある方が、いろいろな部位の形態を詳細に観察することもできるし、利用価値は非常に大きい。



図2 井上寛コレクションのヘリキスジノメイガ

現在、農環研が所蔵する井上寛コレクションは、メイガ類473点、シャクガ科646点である。標本がたまってきたので、一度取りにこられないかと井上寛先生から連絡があったので、2002年11月に服部伊楚子氏と第一著者でご自宅まで出かけ頂戴した標本が、それら以外に882点ある。これらの標本は、井上寛先生が入間市にあるご自宅で採集され、ご自身で標本作成された標本で、未同定である。ロンドンに標本を寄贈した後にたまった標本がご自宅にあった訳である。

井上寛コレクションのメイガ類473点およびシャクガ科646点は同定済みの貴重な標本であることから、今後、早めにデータベース化し、それらの情報を「昆虫データベース統合インベントリーシステム」より公開したいと考えている。

#### 引用文献

- 1)岸田泰則・増井武彦・間野隆裕・佐藤力夫・佐々木明夫・山本光人(2009): 追悼井上寛博士(1917-2008), 誘蛾灯, (196): 61-72.
- 2)吉松慎一・岩崎暁生(2010): 研究トピックス 北海道の広域で発生した新害虫はヘリキスジノメイガだった, インベントリー, (8): 2-3.
- 3)吉松慎一・中谷至伸・安田耕司(2007): 農業環境技術研究所・標本シリーズ3: 中島秀雄コレクション, インベントリー, (6): 38-39.
- 4)吉松慎一・安田耕司・中谷至伸(2006): 農業環境技術研究所・標本シリーズ2: 佐藤力夫コレクション, インベントリー, (5): 47-48.

#### 問い合わせ先

農業環境インベントリーセンター 吉松慎一  
 電話: 029-838-8348, E-mail: yosimatu@affrc.go.jp